

吉川市協働事業評価シート_2020.ver1.2

資料3-1

提出日	令和2年 5 月 10 日	
記入者	団体等名	吉川市青少年相談員協議会
	記入者名	水野 和希
	部署名	子育て支援課
	記入者名	尾花 香穂

1 | 協働事業の概要

協働事業名	青少年相談員活動推進事業	
事業の実施者	団体等	青少年相談員協議会
	行政	子育て支援課
事業の目的	スマートフォンの未成年所持率の急増、ソーシャルメディアの普及などによって、青少年を取り巻く状況は刻々と変化している。情報化社会は便利さや他者と気軽に繋がれる環境を作る一方で、青少年の主体的な思考や活動を阻害される側面を持ち、かつてに比べて主体的に考え行動する「生きる力」の低下が懸念される部分もあるため、本協議会では野外活動での体験を通じ、青少年の主体性の尊重・醸成を目指すこと目的としている。	
事業の内容	公園や公民館等にみんなで集まり、レクリエーションや料理等をする。また、年に1回キャンプを行う。子どもたちが試行錯誤を重ね最後までやり抜く力を培い、頑張った後の達成感を感じるとともに、仲間と協力することの大切さを学ぶ。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	年に1回のサマーキャンプは今年で19回目の実施となる。 【平成31年度サマーキャンプ参加人数】 相談員： 11名 参加者： 28名(男 10人、女 18人) 計： 39名	
協働事業決算	総額	146,000 円
	簡単な内訳	市補助金額:146,000円
実施期間	平成31年4月1日 から 令和2年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○×式）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：令和2年4月29日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、どのような課題(共有・認識の差等)を話し合い、共有しましたか。(記述式) 【団体】 サマーキャンプの参加者が少ないため、広く周知するための方法等についての課題を共有した。 【行政】 サマーキャンプの参加者が少ないため、広く周知するための方法等についての課題を共有した。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合い共有しましたか。(記述式) 【団体】 サマーキャンプの参加者が増えるよう、ちらしの配布をする、ポスターの掲示をする等の改善策を共有した。 【行政】 サマーキャンプの参加者が少ないため、広く周知するための方法等についての課題を共有した。		

提出日	令和 2年 4月 30日	
記入者	団体等名	吉川市連合長寿会
	記入者名	青山
	部署名	健康長寿部長寿支援課
	記入者名	浅子

1 協働事業の概要

協働事業名	老人福祉センター運営事業	
事業の実施者	団体等	吉川市連合長寿会
	行政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	高齢者の健康維持・増進、教養の向上を目指し、仲間づくりの拠点である老人福祉センターの円滑な運営を図る 目標値: 利用者の増加	
事業の内容	高齢者の互助組織である吉川市連合長寿会を指定管理者として主体的に管理運営を行うことで、高齢者の希望に合わせた教養講座やレクリエーション等の展開につなげ、高齢者の健康づくりと生きがいづくりを図る	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	平成31年度利用者数(右欄前年度)	
	個人	5,206人
	団体	22,590人
	その他	4,473人
協働事業決算	総額 31,602,450円 (うち市負担分 31,602,450円)	
	簡単な内訳	
	施設管理業務委託料	27,326,000円
	施設修繕料	1,069,140円
	警備委託料	379,320円
	火災保険料	13,790円
敷地借上料	2,814,200円	
実施期間	平成31年 4月 1日 から 令和 2年 3月 31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日：令和 2年 3月28日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、どのような課題（共有・認識の差等）を話し合い、共有しましたか。（記述式） 【団体】 毎月第2火曜日に行われる指定管理者会議において、課題を話し合い、共有しました。 【行政】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合い共有しましたか。（記述式） 【団体】 令和2年度より、指定管理者が特定非営利活動法人たすけあい・よしかわになるため、今年度までの事業を低下させず、更なる事業内容の充実を図るための会議を3回開催し、改善策を話し合い共有しました 【行政】 同上		

提出日	令和2年5月 8 日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長 立澤 秀子、学習部会長 関口 政則
	部署名	市民参加推進課
	記入者名	片桐 駿介

1 | 協働事業の概要

協働事業名	日本語教室	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行政	市民参加推進課
事業の目的及び目標値	日本語が話せない外国出身の方に、日本語をはじめ、日本の生活文化などを教えるとともに、参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、多文化共生、異文化交流の推進を図る。	
事業の内容	主催: 吉川市国際友好協会(スタッフ管理、教材・備品購入など) 共催: 吉川市(施設予約、資料印刷、日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催など) ボランティアスタッフが、日本語で日本語を教えるというスタイルで実施。 また、日本文化の理解を深めるとともに、学習者同士やスタッフとの親睦を深めるため、交流事業を企画・実施。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室 毎週火曜日 午前の部(10時～12時)、夜間の部(19時～21時) 年間42回実施 ※3月は新型コロナウイルスの影響で中止。 ・参加者延べ人数 午前の部 学習者291人、スタッフ362人 夜間の部 学習者275人、スタッフ328人 合計 学習者566人、スタッフ690人 ・交流事業 クリスマス会(12月24日午前の部、夜間の部で実施) 	
協働事業決算	総額 156,250 円(うち市負担分 0円)	
	簡単な内訳	支出 156,250 円 茶菓代、教材・備品購入等
実施期間	平成31年4月1日 から 令和2年3月31日 まで	
協働の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○×式）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：令和2年4月28日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、どのような課題（共有・認識の差等）を話し合い、共有しましたか。（記述式） 【団体】別紙参照 【行政】別紙参照		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合い共有しましたか。（記述式） 【団体】別紙参照 【行政】別紙参照		

日本語教室 協働事業評価シート 別紙

5	<p>事業を振り返り、どのような課題(共有・認識の差等)を話し合い、共有しましたか。(記述式)</p> <p>【団体】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行政と協働する事により、より多くの市民に活動を発信でき相乗効果は十分あった。 2. スタッフの定着について <ol style="list-style-type: none"> (1) スタッフはボランティアであることから出席状況に変動があり、時としてスタッフ不足になる。 (2) スタッフの高齢化により安定、継続して活動することの難しさも出てきている。 3. 学習者の定着について <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習者は自由参加であるため皆勤者(1年間)もいるが、数回の出席で来なくなる方も多い。 (2) 日本語教室は現在“おあしす”1か所しかなく、美南地区に多く住む外国人には交通の便が悪く継続して参加するのが難しい。 <p>【行政】</p> <p>養成講座受講者のスタッフ定着もあり、スタッフが不足する状況は改善されつつあるが、安定した運営のためには、さらなるスタッフの確保が望まれる。また、生徒は自由参加で緊急連絡先を把握していない場合もあるため、新型コロナウイルスでの中止などを生徒にどのように伝えるのか課題を残した。</p>
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合い共有しましたか。(記述式)</p> <p>【団体】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタッフの定着について <ol style="list-style-type: none"> (1) 中心的に活動してくれるコアスタッフの人数を充実させる。そのためにスタッフ養成講座受講者などへのフォローアップをきめこまかに行う。 (2) スキルアップを図るため、コアスタッフを中心に外部講習への参加を奨励する。 (3) スタッフのスキルアップ研修は年3回ぐらい必要だと思う。 2. 学習者の定着について <ol style="list-style-type: none"> (1) 美南地区に住む外国人、スタッフの為には吉川駅或いは吉川美南駅近くにも開設が望まれます。特に悪天候の場合、クルマの利用が出来ない方は“おあしす”までは大変です。 (2) 職場に同郷の先輩や仲間がいると言葉に不自由せず、仕事が優先で欠席がちとなるようであり、経営者の理解度と自由参加であることから難しいテーマです。 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習者のレベルは様々であり、それに対応するマニュアル作りが必要と思います。 (2) 学習者の自由参加スタイルを採用している現在、誰も来なくてもスタッフは連絡が取れずひたすら待つことになる。個人情報等々難しい問題もあるが、早急に対策が必要と思う。 (3) 学習者登録カードに住所・氏名・国籍・電話番号・メールアドレス・その他を可能な範囲で記入していただいておりますが、緊急連絡が100%可能でないところが今後の課題です。 <p>【行政】</p> <p>市内在住外国人は今度も増加傾向であり、日本語教室は言葉だけでなく日本での慣れない生活に戸惑う外国人の心の支えにもなっており、今後益々重要性が増していくと思われる。さらなるスタッフの確保とスキルアップを支援していきたい。</p>